

情 報 公 開 文 書

研究の名称	プリザーフロマイクロシャント術後の角膜内皮減少因子の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系 眼科学 林 篤志
研究の概要	【研究対象者】 富山大学附属病院で難治性緑内障と診断され 2024 年 1 月から 2024 年 10 月までにプリザーフロマイクロシャント手術が施行され、術後少なくとも 6 カ月経過観察できた患者さんを対象とします 【研究の目的・意義】 角膜内皮は角膜の透明性を保持します。角膜内皮が減少すると角膜は浮腫をおこし、透明性を維持できなくなります。緑内障濾過手術は眼圧を下降させ、緑内障進行を抑制するが、手術による内皮減少が問題となっております。近年緑内障手術の中で緑内障低侵襲手術として注目されているのがプリザーフロマイクロシャントです。プリザーフロマイクロシャントは前房内に先端を留置するため角膜内皮の減少が予想されます。したがって今回我々はプリザーフロマイクロシャントの術後角膜内皮を調査し、角膜内皮減少に関わる因子を同定するため後ろ向きの研究を実施します。 プリザーフロマイクロシャントの術後角膜内皮を調査し角膜内皮減少の因子を同定することで今後同じ手術を受ける患者さんに対して最も内皮減少しにくいチューブ位置を考えることができます。 【研究の方法】 診療録による後ろ向きの調査を行い、術後 6 カ月後の角膜内皮、前眼部 OCT によるチューブ位置、隅角鏡検査によるチューブ位置を調査いたします。 【研究期間】 実施許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日 【利益相反の状況】 公開すべき利益相反はありません。 【研究結果の公表の方法】 論文掲載を予定しています。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	情報の項目：術前、術後 3、6 カ月後の角膜内皮細胞数、視力、眼圧、点眼スコア、術後 1 か月における隅角鏡検査によるチューブ位置、前眼部 OCT によるチューブ位置、緑内障病型 他機関への情報の提供：無
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。

試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	学術研究部医学系眼科学 教授 林 篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 眼科医局 076-434-7363 FAX 076-434-5037 E-mail otsuka@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 学術研究部医学系眼科学 大塚光哉 研究対象者等からの相談窓口 電話対応